

27Q-pm092

配薬セット業務への薬剤師の参入～薬剤師、看護師の病棟業務改善と誤投薬防止
○堀江 美保¹, 安田 穂¹, 安田 礼子¹, 小山 秀樹¹, 沼田 裕一¹ (¹横須賀市立
うわまち病院薬)

【目的】薬剤師の専門性を臨床の場でより生かし、誤投薬防止、薬品管理に努める事で患者の安全に寄与したいと考え、内服管理の方法を検討した。【方法】看護スタッフと病棟における内服誤薬防止について検討した。これまで看護スタッフが行っていた朝昼夕、眠前のケースにそれぞれ内服薬を入れる作業(以下配薬セット)を薬剤師が行う事にした。配薬カートを用い、各病棟の看護師の要望と入院患者層に合わせて、1日及び1週間配薬セットとした。薬剤師による配薬セット導入前と導入後のインシデントの報告数及び内容の変化について検討した。また、看護師、薬剤師にアンケートをとり、業務改善度を調べた。【結果】薬剤師による配薬セット前の内服薬に関するインシデントの件数は、平均4.6件/月(H20.3～8月平均)であった。薬剤師によるセット導入後も4件/月(H20.9月)と大きな変化はなかったが、内容はレベル1(患者に実施してしまう)からレベル0(未然に防ぐことができた)へと移行した。更に、看護スタッフサイドでは「負担が減った」が71%、「負担は変わらない」が23%、「負担が増えた」が5%となり、患者の情報収集の時間が増え、対応も余裕を持って行えるようになった、との意見が多く挙がった。【考察】薬剤師が配薬セットを行うことで、薬剤師は病棟での医師による直接の指示や変更等の服用状況を正確に把握でき、重複投与を避ける事ができた。病棟での薬剤師業務の中でも内服薬管理はチーム医療を行う上で、不可欠の業務の一つであると考えられた。